

被災地の景観の 復興をめざして



兵庫県景観復興
マスタープログラムの概要



兵庫県

心をつなぐ景観復興のために

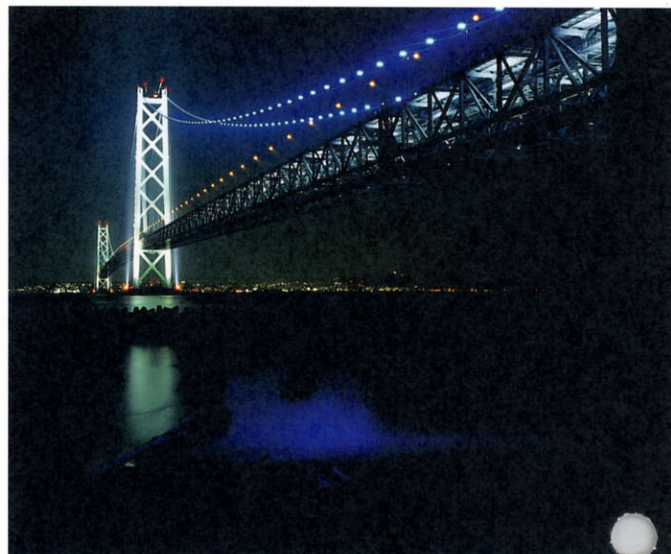
阪神・淡路大震災は、人類史上初めての高齢社会下における大規模災害であり、私たちのふるさとに未曾有の被害を与えました。その震災直後の混乱のなかから、県民や事業者の方々をはじめ、国、県、被災地の10市10町では、一日も早い回復と安定をめざして全力を注いできました。

このため、震災から3年半余りが経過したいま、都市基盤、住宅、産業などは総量的にはほぼ震災前の水準に回復し、街並み景観についても、今後は外構等の住宅本体以外の整備が進むと予想されています。

このように震災復興は2次的局面を迎えたといえ、今後とも、行政はもとより、県民、企業、団体など、様々なグループが相互に励まし合い補い合う“協力復興”の精神のもと、成熟社会にふさわしい創造的復興をさらに推進していくことが重要です。

特に、被災地における景観の変化は、社会・経済的な背景の中で徐々に起こりつつあった変化が、震災により短期間に表面化したものとも言えます。その意味で、被災地における景観復興は21世紀の地域づくりを先導するものとなるでしょう。

こうしたことから、景観復興マスタープログラムは、次世代の人々や内外に誇りうる、美しく魅力ある被災地の街並み景観を創造するため、これからの創造的復興における景観面の総合的な行動指針として、市町との協働のもとに策定しました。



● 景観復興マスタープログラムの目的

心をつなぐ景観復興

地域が培ってきた個性の継承と新たな地域文化づくりに取り組み、次世代の人々や内外にも誇りうる美しく、魅力ある街並み景観の創造を推進します。

県民、事業者、団体、行政等の各主体が、景観の復興と創造をめざして、連携と協働により自発的かつ積極的に取り組む景観づくりを推進します。

● 景観復興の基本方針

1. めざすべき地域景観イメージの共有
2. 地域の価値ある景観の発見と継承
3. 新たな復興街並み景観の形成
4. 復興市街地の調査研究と情報発信

● 計画の対象地域

被災した10市10町を対象にします

- ◆ 神戸地域：神戸市、明石市、三木市（3市）
- ◆ 阪神地域：尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市（6市）
- ◆ 淡路地域：洲本市、津名町、淡路町、北淡町、一宮町、五色町、東浦町、緑町、西淡町、三原町、南淡町（1市10町）



第6回さわやか街づくり賞受賞/大丸神戸店(神戸市)

被災地の景観・街の姿を見てみよう

【お屋敷街】

土地利用の変化に伴う地区イメージの希薄化

- マンションやアパート、青空駐車場が増えて、お屋敷街のイメージが壊れつつあります。
- お屋敷街にマンションやアパートが混在し、街のまとまりが失われてきています。

伝統的な敷地要素の消失・改変による街並みの個性の希薄化

- 伝統的な石積み生垣や和風塀、板塀などが失われたり、現代的な材料で補修されたりして、街並みの個性や、魅力が低下しています。



【一般市街地（中小規模宅地）】

工業化住宅の露出による街並みの画一化

- 以前は門、塀、植栽が街並みを形作っていましたが、再建された住宅では植栽などが削られたり、敷地一杯に建築されるものが増えています。
- 3階建てにして1階部分をガレージにする場合も多く、直立するコンクリートの壁が圧迫感を与えます。
- そのため、道路と建物とが直接接し、工業化住宅などの外壁が露出・連続した画一的な街並みが構成されており、いわば「街並みのプレハブ化」が進んでいます。

敷地の無機質化・画一化

- 敷地はコンクリートで固めた駐車場やブロック塀などで造られることが多く、無機質で画一的です。また将来、緑を植えたくなくても、植えることが出来ません。





【歴史的・伝統的市街地】

伝統的な建築物の消失・改変による街並み個性の希薄化

- 街道筋や旧集落では、伝統的な建築物の多くが被災・撤去され、地域の個性やアイデンティティが希薄化しつつあります。
- 残った伝統的な建物も存亡の危機にあります。
- 伝統的な建物、門、塀なども現代的な材料・様式で補修・修復され、魅力が低下しています。

工業化住宅と伝統的な街並みとの不調和

- スレート瓦、塗装外壁パネルなどの工業化部材は、伝統的な街並みと色彩や材質感が調和しにくいいため、時間が経ってもなじみにくく、街の魅力が低下してしまいます。



【漁村市街地】

再建住宅における瓦屋根へのこだわり

- 瓦屋根への執着が強く、瓦を使った在来工法による再建住宅が多く見られます。
- プレハブ住宅であっても瓦屋根の場合が多く、建て直しなど修復・再建する住宅も見られます。



集落構造の変化に伴う景観特性の喪失

- 再建時の壁面後退により、路地の拡幅、街並みの直線化、陰影やリズム感の喪失など、漁村集落が伝統的に持っていた景観構造が変化しつつあります。
- 伝統的な家造りのルールに沿わない再建住宅が増え、街並みづくりのルールが失われつつあります。
- 路地などの共同空間の整備が遅れています。

伝統的な敷居要素の消失・改変による街並みの個性の希薄化

- 伝統的な建物や石積み生垣、和風塀、板塀などが消失したり、工業化部材で補修・修復されるなど、伝統的な漁村の雰囲気徐々に薄れてきています。



被災地の景観づくりに取り組もう

Q 通りや町内会で一緒に取り組みたい地域では…



A 住民発意促進型の景観づくりがおすすめです。

◆身近な地域の愛着ある景観を育てたり、魅力ある景観を発掘するなど、住民相互の認識を深めながら、地域の誇りやアイデンティティを高めていきます。
通りや地域単位の美化・清掃や緑化運動などからでも始められます。より本格的には、建築物の規制誘導や緑化など、地域環境の保全を目的とする景観協定や地区計画等への発展も考えられます。



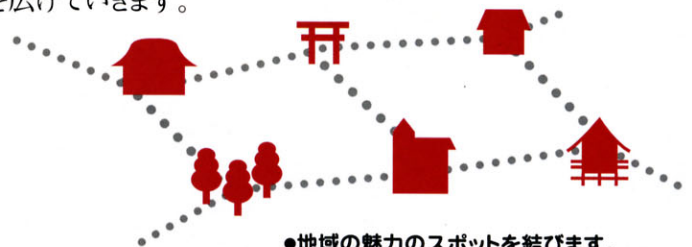
●住民自らが通りや地域単位で身近な景観づくりや街並みづくりに取り組みます。

Q 文化財や近代建築物など景観資源がある地域では…



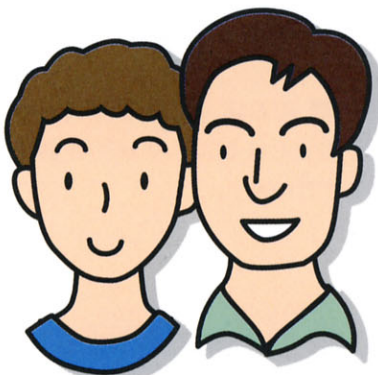
A 景観資源ネットワーク型の景観づくりがおすすめです。

◆点在する文化財や歴史文化的環境をネットワーク化し、地域全体の個性的な景観イメージを形成します。さらに周辺環境にまで展開します。近代建築や歴史的街並みの保存などによって、景観資源の集合体として地域イメージを広げていきます。



●地域の魅力のスポットを結びます。
●さらに周辺にまで広げます。

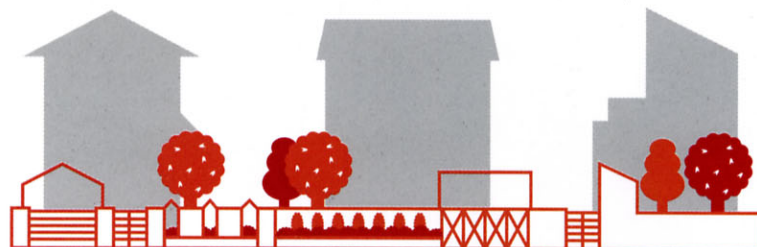
Q 新たな魅力を持った街並みを作りたい地域では…



A 新街並み充実型の景観づくりがおすすめです。

◆個々の建物の建設や建て替え等に際して、建物デザインや外構に工夫を加え、魅力ある景観づくりに取り組みます。

- 鉢植えやプランターなどによって道際に新しいデザイン工夫をほどこす。
- 淡路の瓦、阪神間の石垣など、地元の建材を積極的に活用し、地域性のある景観イメージを強調する。



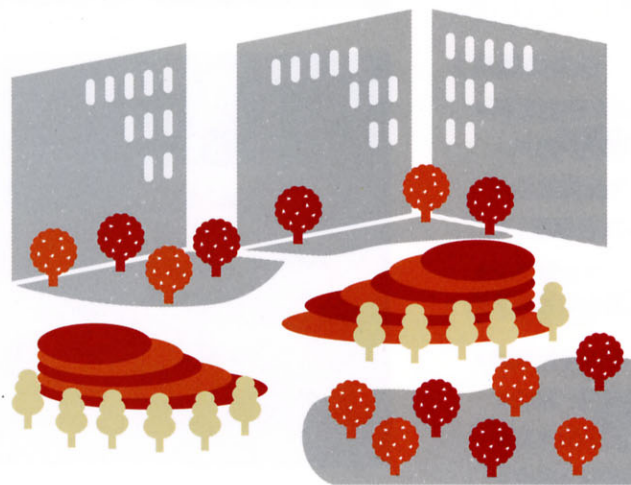
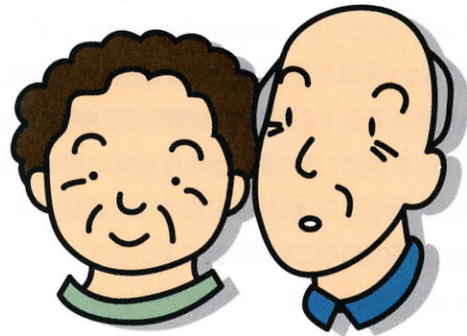
●道際の植栽やしつらえて景観が変わります。
●地場建材の活用で地域性のある景観イメージを強調します。

Q 大規模な復興まちづくりの地域では…

A 新景観創造型の景観づくりがおすすめです。

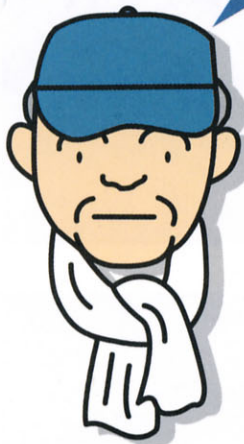
◆大規模な復興まちづくりにおいて、従来の景観イメージを継承しつつ、地域の核になるような景観や環境を創造していきます。

- 新都市開発や重点復興地区などで、住民自らが景観づくりに参加する。



●南芦屋浜団地コミュニティ&アート計画では、花のだんだん畑をつくり、アートを通してこころを育む環境をつくりだしました。

Q 見通し景観や眺望景観が魅力の核になっている地域では…

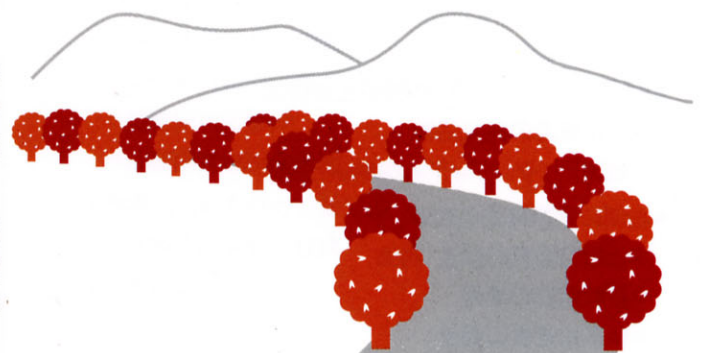


A 大景観・眺望景観型の景観づくりがおすすめです。

◆川や道路に沿った景観や山なみからの眺望などを阻害しないよう取り組みます。

また、アイストップやランドマークなどによる個性的な景観を創造します。

- 河川を軸とする景観を保全する(武庫川・猪名川などの大河川、住吉川・芦屋川などの中小河川)。
- 淡路花回廊などのように高速自動車道路沿道に、地域性のあるランドマークを整備する。



●高速自動車道路沿いに花のランドマークをつくります。

被災地の復興と創造に向かって

1.めざすべき地域景観イメージの共有

親しみと魅力のある景観形成のためには、県民及び事業者のそれぞれが、地域の景観や環境について主体的に考え、取り組むことが不可欠です。また、住宅メーカーや工務店などの造り手側にも、景観形成の重要性を理解し、積極的に良好な景観形成に寄与する姿勢や倫理観が求められます。このため、県民、事業者、造り手などの各主体に対し、幅広く意識の啓発に取り組み、地域の目指すべき景観イメージが共有されるよう取り組むことが重要です。

〔方策の例示〕

- 各主体に対する景観意識の啓発
 - 普及啓発・広報活動
 - 景観イベント活動
- 景観形成を先導する地域景観リーダーの育成
 - 景観づくりの学習・教育活動
 - 次世代の地域景観リーダーの育成
 - 地域景観リーダーの組織化
- 地域景観づくり団体の育成とまちづくり活動への発展支援
 - 地域景観づくり団体の育成
 - 総合的まちづくり団体への育成
 - 「復興まちづくり支援事業」の継続・充実



2.地域の価値ある景観の発見と継承

歴史的市街地や伝統的な集落だけでなく、普通の街にも住民に愛され親しまれている場所や風景があります。これらは地域固有の景観であり、アイデンティティに結びつく景観資源です。これらの資源は、震災とその後の復興過程の中で、急速に姿を消しつつあります。このような地域固有の景観資源を、住民自らがあらためて発見し、共に認め合い、保全や活用策を通して次世代に継承するよう取り組むことが重要です。

〔方策の例示〕

- 地域アイデンティティの発見と共有化
 - 地域資源の発見活動
 - 地域アイデンティティの共有化活動
- 地域の景観資源の継承
 - 伝統的要素の保全・再生
 - 景観資源の活用
 - 保存技術者の養成
 - 公共空間における地域資源の積極導入



3. 新たな復興街並み景観の形成

現在被災地で生じている景観の変化は、通常数十年かかる市街地変化が短期間に凝縮したという側面を多分に持っています。特に、震災後急増している工業化住宅や工業化部材を用いた住宅は、将来日本の住宅の中心になると予想され、周辺との調和や風土とのなじみなど、地域景観の視点からの検討が求められるところです。

このため、再建された住宅や街並みの景観育成を進めるとともに、主に工業化住宅のデザインについて、地域性、風土、周囲との関係などの視点から見直し、新たな街並み景観の形成に向けて取り組むことが重要です。

〔方策の例示〕

- 再建住宅や街並みの景観育成
 - 外構・敷地緑化の推進
 - 住民意識の啓発活動
 - 「景観形成事業」の継続・充実
- 将来望まれる街並み景観形成手法の開発
 - 工業化住宅に対応した街並み景観形成手法の研究開発
- 将来望まれるオープンスペースの景観形成手法の開発
 - 外構・敷地空間の景観形成手法の研究開発
 - 空地の暫定景観のあり方研究
 - 今後の市街地緑化手法の研究

4. 復興市街地の調査研究と情報発信

創造的復興の取り組みを内外に幅広くアピールしていくため、被災地で研究・開発された成果を被災地だけでなく、全国に情報発信していきます。

また、復興市街地では刻々と再建活動が進行していることから、新たな問題の早期発見と予防のため、復興まちづくりの継続調査に取り組むことが重要です。

〔方策の例示〕

- 復興市街地の継続調査
 - 調査研究体制の整備と連携の強化
 - 調査研究の拡充
 - 調査研究成果の広報
- 復興市街地からの情報発信
 - 情報提供基盤の整備
 - 情報づくり活動



海・山・まちが調和した個性豊かな景観の復興に向けて

神戸地域〈神戸市、明石市、三木市〉

景観復興に関する神戸地域の人々の意識は—

■神戸市と明石市では景観条例を制定しており、めざすべき景観イメージが示されています。またパンフレットなどの配布や表彰制度を実施しており、市民・事業者の景観意識も高まっています。

特に神戸市では、条例に基づく景観形成市民団体に加えて、景観づくりに取り組む市民団体が活発に活動しているほか（例えば都賀川を守ろう会や阪神グリーンネットなど）、各区ごとの運動も展開されています（元気アップ神戸市民運動など）。

明石市でも、歴史的景観に対する意識は高く、三木市では、山なみや樹林、川など自然景観への関心が高まっています。



神戸地域の景観の復興と創造に向けた取り組みメニュー

1)めざすべき地域景観イメージを共有するために

- 景観意識の啓発・醸成
 - 建築デザイン相談員制度等の拡充
 - 景観形成市民団体相互の連携強化
- 景観形成を先導する地域景観リーダーの育成
 - 自主的に景観活動を展開している活動団体に対する支援
 - 次世代の地域景観リーダーの育成
- 地域景観づくり団体の育成とまちづくり活動への発展支援
 - 景観形成市民団体の支援・育成
 - まちづくり協議会に対する支援

2)地域の価値ある景観を発見し継承するために

- 地域アイデンティティの発見と共有化
 - 景観ワークショップの開催
 - 通りの愛称化の推進
 - 街並みウォッチングスタンプラリーの継続的開催
- 地域の景観資源の継承
 - 景観形成重要建築物等の指定と活用
 - 景観形成市民協定、まちづくり協定などの活用
 - 街路整備におけるグレードアップの推進

神戸地域の景観資源や個性は—

- ◆ 神戸市では、六甲山～山麓の住宅地～下町～神戸港という構造を最大の特性としています。さらに国際港として異人館や旧居留地、南京街などといった異国情緒あふれる景観が神戸を特徴づけています。市ではこれらを景観条例に基づいて地域指定し、より個性的な景観づくりを進めています。またアロード、酒蔵の道など道路に愛称を付けて、地域のシンボル化を進めています。
- ◆ 明石市では、農家や民家を中心に重要建築物等に指定し、保全を図っています。また、酒蔵地区や旧街道沿いなどで歴史的景観の保全・活用に取り組んでいます。
- ◆ 三木市では、山なみ、田園、樹林、河川など自然的要素が地域景観の基調をなしています。



3) 新たな復興街並み景観を形成するために

- 再建住宅や街並みの景観育成
 - 戸建て住宅デザイン集などの発行
 - いえなみ憲章などによる景観誘導
 - 街並み誘導型地区計画制度、緑化助成制度など各種制度・事業の活用
- 将来望まれる街並み景観形成手法の開発
 - 復興住宅・街並み事例集の作成とPR
 - 伝統的な街並みの修景デザイン手法の開発
- 将来望まれるオープンスペースの景観形成手法の開発
 - 敷地修景モデルの作成とPR
 - 復興通り事例集の作成とPR
 - まちづくりスポット整備事業などの推進

4) 復興市街地の調査研究と情報発信のために

- 復興市街地の継続調査
 - 復興情報のネットワーク化
- 復興市街地からの情報発信
 - 阪神・淡路大震災復興支援館などの活用
 - 復興情報ネットワークの拡充

豊かな市民文化と永い歴史に彩られた景観の復興に向けて

阪神地域〈尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市〉

景観復興に関する阪神地域の人々の意識は—

■ 阪神地域では、6市とも景観条例を制定しており、めざすべき景観像や理念が明示されています。また各市では、景観パンフレット等の配布や景観セミナーなどを実施しており、市民・事業者の景観意識も高まっています。

このため、条例に基づく重要建築物等の所有者だけでなく、景観づくりに取り組む市民組織が育ち始めています(例えば丹悠会(伊丹市)や芦屋景観市民会議(芦屋市)など)。

しかし、歴史的景観の保全を中心に景観施策を展開してきたため、市民の間では「景観＝歴史的街並み」として理解される傾向もあります。



阪神地域の景観の復興と創造に向けた取り組みメニュー

1)めざすべき地域景観イメージを共有するために

- 景観意識の啓発・醸成
 - 景観啓発事業の阪神間での共同・協調実施
 - 景観条例、景観形成計画、デザイン指針などの周知徹底
- 景観形成を先導する地域景観リーダーの育成
 - 景観づくりに関する活動団体に対する支援
 - 次世代の地域景観リーダーの育成
- 地域景観づくり団体の育成とまちづくり活動への発展支援
 - まちづくり組織の育成と活動支援
 - 景観協定等の制度化と活用

2)地域の価値ある景観を発見し継承するために

- 地域アイデンティティの発見と共有化
 - 「景観ワークショップ」の開催
 - まちおこしイベントの開催
 - 「阪神住宅文化」の再構築に向けたライフデザインなどの研究
- 地域の景観資源の継承
 - 景観形成建築物等の指定と活用
 - 景観協定などを活用した街並みづくりの推進
 - 公共空間における地域資源の積極的導入

阪神地域の景観資源や個性は—



◆ 阪神地域には、古代から続く長い歴史と「モダニズム」に代表される豊かな文化的背景があります。そのため歴史的な建築物や街並み、あるいは近代建築物や洋館など、個性的な景観資源が多くあります。

◆ 各市ではそれらを景観条例で指定するなど保全を働きかけ、今では市のアイデンティティの基盤として市民の間にも認知されています。とはいえ、所有者の意識に負うところが大きいことも確かです。

◆ また、震災などのためにこれらの景観資源が消失したり、一般市街地が広がるにつれて、近代建築物や洋館、別荘地などに代表される「阪神住宅文化」が希薄化しつつあります。

3) 新たな復興街並み景観を形成するために

- 再建住宅や街並みの景観育成
 - 戸建て住宅デザイン集などの発行
 - 街並み誘導型地区計画制度、生垣助成制度など各種制度・事業の活用
- 将来望まれる街並み景観形成手法の開発
 - 「復興住宅・街並み事例集」の作成とPR
 - 伝統的な街並みの修景デザイン手法の開発
- 将来望まれるオープンスペースの景観形成手法の開発
 - 「敷際修景モデル」の作成とPR
 - 多様な緑の導入

4) 復興市街地の調査研究と情報発信のために

- 復興市街地の継続調査
 - 復興情報のネットワーク化
 - 阪神間の復興まちづくりに関する情報交換
- 復興市街地からの情報発信
 - 阪神・淡路大震災復興支援館などの活用
 - 復興情報ネットワークの拡充

独特の風土と生活文化に つまれた景観の復興に向けて

淡路地域

〈洲本市、津名町、淡路町、北淡町、一宮町、五色町、東浦町、緑町、西淡町、三原町、南淡町〉

景観復興に関する淡路地域の人々の意識は—

■ 淡路地域では、伝統的な集落景観に対する共通認識が弱まりつつあり、そうしたものへの評価も十分には認識されていないようです。町屋型の民宿からペンションへの指向が増えたり、西洋風別荘地が開発されるなど、将来の地域景観イメージが不透明化しつつあるといえます。しかし、コミュニティ意識や郷土への愛着は強く、郷土史探究者なども多く輩出しています。

また、住宅では在来工法が根強く支持されており、住まい手との信頼関係を有する大工や工務店が地域の景観づくりのリーダー的役割を果たしています。



淡路地域の景観の復興と創造に向けた取り組みメニュー

1) めざすべき地域景観イメージを共有するために

- 景観意識の啓発・醸成
 - 景観形成ガイドラインの作成とPR
 - 「淡路 街並み事例集」の作成
- 景観形成を先導する地域景観リーダーの育成
 - 景観フォーラム等の開催
 - まちづくりリーダー（ガイド）の養成
 - 次世代の地域景観リーダーの育成
 - 景観表彰制度の創設
- 地域景観づくり団体の育成とまちづくり活動への発展支援
 - まちづくりへの住民参加の推進
 - 景観アドバイザーの派遣

2) 地域の価値ある景観を発見し継承するために

- 地域アイデンティティの発見と共有化
 - 住民参加型街並み景観調査の実施
 - 伝統的まち・いえづくり作法（タブー）集の作成
 - 風景形成地域の指定による景観拠点の形成
- 地域の景観資源の継承
 - 景観資源発見イベントの実施
 - 伝統的技術の後継者養成
 - 公共空間、共同空間のスポット型修景整備の推進



淡路地域の景観資源や個性は—

- ◆ 淡路地域では、山・田園・海といった自然の骨格に包まれるように伝統的な集落形態が継承されてきました。集落には数多くの社寺・ほこらがあり、住民の手で守られています。
- ◆ このような自然要素、瓦の家並みのほか、社寺、井戸、会所などの共同空間が淡路地域の各集落を個性づける景観資源となっています。
- ◆ 瓦屋根やシコロ建て等の在来工法は住民にも造り手にも支持され、淡路の景観的特性として大切にされています。しかし、自然景観や路地などから成る漁村集落の景観についてはあまり認識されていません。そこで、市町では、地元でつくられる瓦の普及・活用と自然景観の保全を重視しています。

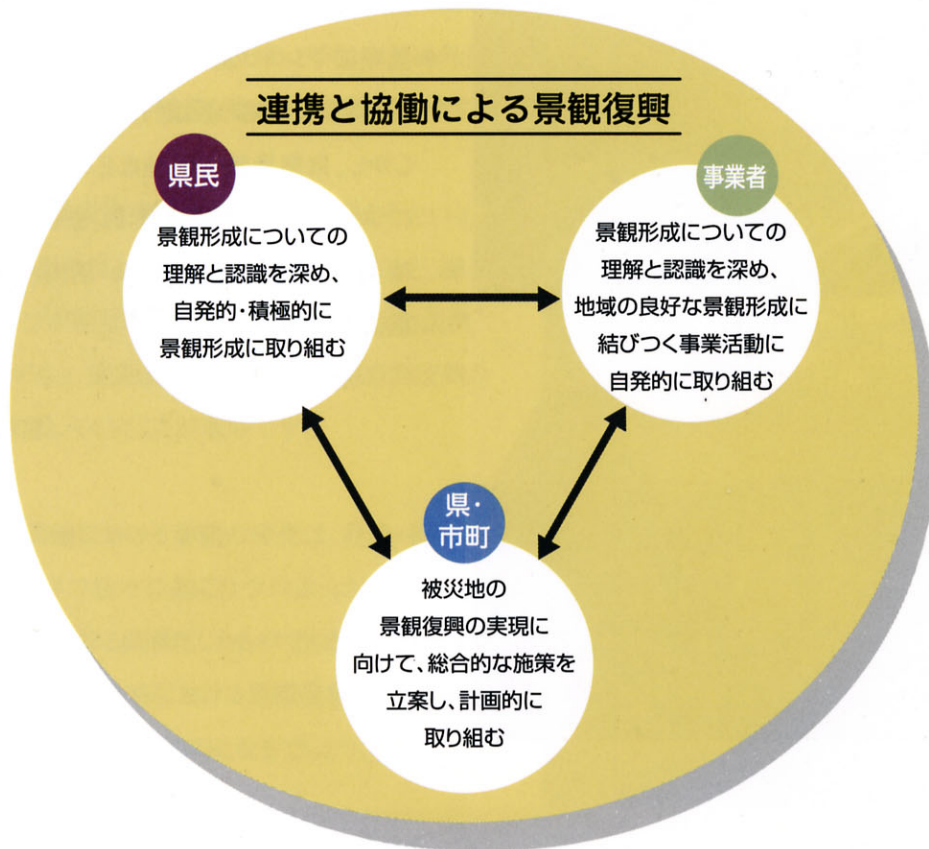
3) 新たな復興街並み景観を形成するために

- 再建住宅や街並みの景観育成
 - 住民参加による路地修景ワークショップなど協動的修景整備の推進
 - 景観表彰制度の創設
- 将来望まれる街並み景観形成手法の開発
 - 全島レベルでの景観計画の作成と推進
 - 伝統的景観の長所の継承・発展
 - 淡路の新たな景観軸の構築
- 将来望まれるオープンスペースの景観形成手法の開発
 - 「敷地修景モデル」の作成とPR
 - 震災空地カルテの作成
 - オープンスペースの景観特性調査

4) 復興市街地の調査研究と情報発信のために

- 復興市街地の継続調査
 - 復興情報のネットワーク化
 - 自治会や工務店など住民参加型調査の実施
- 復興市街地からの情報発信
 - 阪神・淡路大震災復興支援館などの活用
 - 身近な情報収集・発信基盤の整備
 - 住民参加型の復興情報づくり

連携と協働による景観復興



兵庫県都市住宅部都市政策課

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1
TEL (078) 341-7711 (代)

10都P2-128A4

発行/平成10年10月